

### 3 第3期行動計画の基本方針

#### 3.1 取組理念

第3期行動計画の推進にあたって、以下を取組理念とします。

## 人をつなぎ、地域をつなぎ、未来につなぎ

～印旛沼流域創生に向けて水循環健全化の取組をつむぎ、つなげる～

みためしの精神から始まった健全化計画は、緊急行動計画での「みためし行動」から基本的な知見を得て、第1期には流域における各種対策の具体化に取り組み、雨水浸透対策を推進する印旛沼ルールや調整池作成の手引きなどを作成しました。

第2期には、印旛沼に関する総合的な学習に活用できる「教員向け環境学習指導案集」の作成や、印旛沼かわまちづくり計画に基づく水辺の拠点整備を実施するなど、水循環健全化の環を広げるための基盤づくりに取り組みました。また、市民団体、企業、大学、行政など立場の異なる関係者が一同に集まり印旛沼について考える機会となる「印旛沼流域環境・体験フェア」を継続して開催するなど、水循環健全化の環を広げる取組を実施してきました。

その結果、ナガエツルノゲイトウの協働駆除作戦の継続的な実施に加えて、地域適応コンソーシアム事業のモデル地域として流域管理による気候変動適応策の検討が実施されるなど、健全化会議の枠組みを超えた取組が実施されました。さらには、新川ウォーターフロントプロジェクト、里山グリーンインフラネットワーク、まるごと印旛沼といった新しい動きが出てくるなど、印旛沼・流域の水循環健全化の環は広がり、印旛沼流域創生の流れが生まれつつあります。

一方で、2019(令和元)年10月の大雨による浸水被害の発生や、新型コロナウイルス感染症の発生などによって、第2期の後半からは思うような取組は実施できませんでした。印旛沼流域創生の流れをとめずに、どのように未来につないでいくのかが求められています。

近年の水災害の発生等を踏まえて、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う「流域治水」が全国的に進められることとなりました。印旛沼・流域においても、流域治水を新たな駆動力として、水循環健全化の各種取組を強力に推進していきます。

第3期は、印旛沼及び流域を地域の大切な資産として活用し、流域で活動する多くの方々の取組をつむぎ、それを未来につないでいくための期間と捉えます。

様々な立場の関係者が水循環の健全化に参加型で取り組める環境整備や情報発信を行い、総力戦で印旛沼流域創生に向けた取組を進め、流域に関わる全ての人が印旛沼・流域に愛着を持って、印旛沼・流域での暮らしを楽しみ、安全・安心で心豊かな生活をおくれる地域づくり・まちづくりを推進していきます。

## ●人をつなぎ／多様な主体の情報共有、共感、連携を推進します

- ✧ 市民や市民団体、農業・漁業・観光等沼利用者、企業、流域市町、研究機関など、印旛沼・流域に関わる多様な主体が、情報を共有し、お互いの共感を深めることで、積極的な連携・協働が図られるよう推進していきます。
- ✧ 印旛沼・流域では、第2期の期間に新たな取組（新川ウォーターフロントプロジェクト、里山グリーンインフラネットワーク、まるごと印旛沼など）が始まっています。また、それ以外にも水循環健全化につながる多くの取組が印旛沼・流域で展開されています。第3期では、こうした取組にこれまで以上に注目し、連携を推進します。

## ●地域をつなぎ／顕在化している課題を共有し、連携による地域づくりを推進します

- ✧ 顕著化する気候変動による豪雨災害リスクの増加や新型コロナウイルス感染症など、第2期計画期間中に生じた新たな課題について、地域で危機を共有し、互いに補完し合うことで乗り越えることを目指します。印旛沼流域内の市町間や、印旛沼からやや離れた水源地域と沼周辺の地域、農村と都市部、流域内と流域外など、印旛沼に関わる地域の有機的な連携を促し、相互補完や相乗効果の創出を図ります。
- ✧ 地域で展開されている地域活性化・賑わいづくり、グリーンインフラ等の先進的な取組を他の地域にも横展開することで、流域全体での取組に広げていきます。
- ✧ 流域市町が中心となって推進している地域づくり・まちづくりとの連携を図り、印旛沼及び流域を活用した地域創生、地域活性化を図ります。

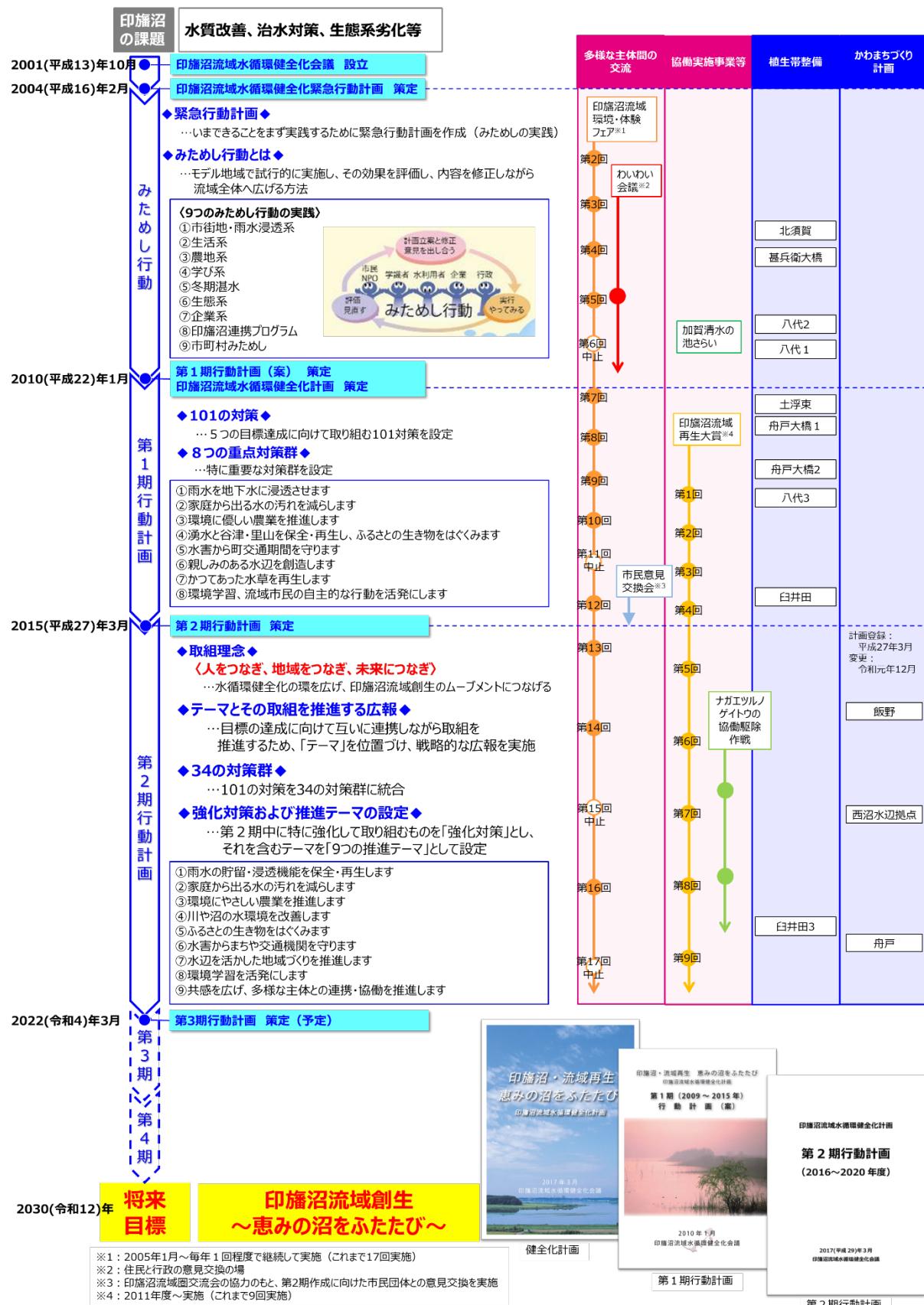
## ●未来につなぎ／持続可能な取組により、地域資源である印旛沼・流域を次世代に継承します

- ✧ 印旛沼との伝統的な付き合い方や先人達の知恵、長い年月をかけて育まれてきた歴史や文化、今に引き継がれている印旛沼のある暮らしの豊かさを、地域のアイデンティティとして後世に引き継ぎます。
- ✧ 印旛沼・流域と人との関わりを強めることで、印旛沼・流域が地域共有の財産として、多様な人々により保全・活用され、次世代に受け継がれていくことを目指します。
- ✧ 印旛沼をめぐる人や地域がつながることで、様々な知恵やアイデアの交流が生まれ、多くの課題解決につながる取組が、将来にわたり持続的に展開されることを目指します。

### 印旛沼流域創生とは

「印旛沼流域創生」とは、長い年月をかけて育まれてきた印旛沼・流域の歴史や文化、印旛沼・流域を特徴づける沼や水辺、台地、里山などの自然環境を、流域の多様な主体が一丸となって保全・活用し、暮らしの中で楽しむことで、人や地域の交流が活発になり、印旛沼を核としたコミュニティ再生や、印旛沼・流域を中心とした地域づくりが活発になる姿をイメージしています。

## 健全化会議のあゆみ



## いんばぬま情報広場とこれまでの取組成果

健全化会議では、WEBサイト「いんばぬま情報広場」においてより詳しい内容を知りたい方に向けて、各種情報の発信を実施しています。



いんばぬま

検索

<https://inba-numa.com/>

### ＜メニュー紹介＞

	印旛沼の位置、水質、魅力など、印旛沼のあらましを説明
	健全化会議で実施している取組を紹介 ナガエツルノゲトイウ協働駆除作戦 等
	印旛沼へのアクセスやイベント情報を掲載 印旛沼関連マップのダウンロードもできる
	さらに詳しい情報として、印旛沼の水質の成り立ちの説明や各種モニタリング結果等、資料・データを掲載している
	健全化会議の会議資料や取得しているデータ・資料等を掲載。作成してきたパンフレットやマップ、調査研究報告書などを掲載
	印旛沼水循環健全化計画、各期の行動計画や緊急行動計画を掲載
	印旛沼・流域で活動する市民活動団体を紹介、印旛沼・流域再生大賞の歴代受賞者とその活動内容を紹介

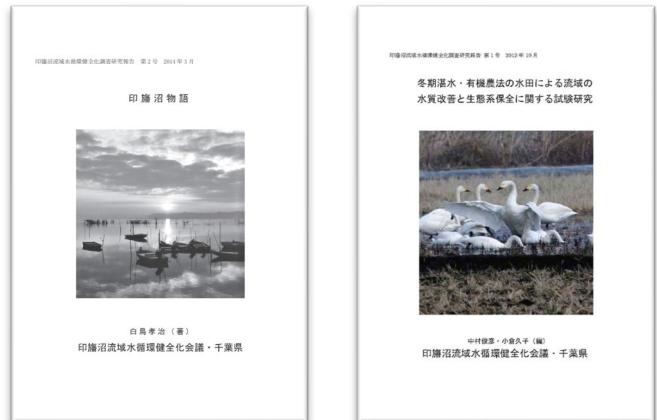
### ＜新着情報＞ 最新の情報を発信

新着情報	
「水循環健全化計画 第3期行動計画（案）」のページを公開しました。	イベント情報に「まるごといんばぬまシンボルアム「人を繋ぎ、想いによりそい・未来へつなぐ」」を追加しました。
2022/3/1 (火) <a href="#">詳細へ</a>	2022/1/27 (木) <a href="#">詳細へ</a>
イベント情報に「第24回水辺の風景画コンクール」を追加しました。	「印旛沼の水質」を更新しました。
2021/10/31 (日) <a href="#">詳細へ</a>	2022/1/27 (木) <a href="#">詳細へ</a>
イベント情報に「佐倉・産業大博覧会」を追加しました。	イベント情報に「佐倉・産業大博覧会」を追加しました。
2021/11/4 (火) <a href="#">詳細へ</a>	2021/11/4 (火) <a href="#">詳細へ</a>

資料・データ 印旛沼を紹介するパンフレット・マップを配布  
パンフレット・マップ



資料・データ 調査研究報告書 健全化会議での取組を調査報告書として配布



## コラム：2019(令和元)年10月25日の大雨とその被害

2019(令和元)年10月25日、太平洋岸に進んだ低気圧と、日本の東海上を北上した台風第21号の影響によって大気の状態が非常に不安定となり、関東地方から東北地方の太平洋側を中心に広い範囲で総降水量が100mmを超える雨となりました。

印旛沼・流域においても、短時間に200mmを超える大雨となり、印旛沼の水位が既往最高水位※まで上昇し、堤防からの漏水や流入河川でのはん濫等による浸水被害が発生しました。

令和元年10月25日の大雨と印旛沼の水位変化



※既往最高水位：水資源開発公団が水位管理を開始した昭和43年以降に観測された最高水位

## 3.2 計画の進行管理

第3期行動計画は、PLAN（計画）、DO（実行）、CHECK（確認）、ACTION（見直し）およびPUBLICATION（公表）の5つの視点を基本として、データサイエンスに基づく進行管理を行います。

計画策定 (PLAN)	<ul style="list-style-type: none"><li>第3期行動計画を策定します。</li></ul>
取組の実行 (DO)	<ul style="list-style-type: none"><li>計画に基づき、取組を実行します。</li></ul>
確認 (CHECK)	<ul style="list-style-type: none"><li>目標達成状況、取組進捗状況は、それぞれを評価するために設定する指標により毎年度確認し、健全化会議委員会（以下、「委員会」という。）で共有します。</li><li>推進対策は、部会等により毎年総括を行い、委員会に報告し、助言と評価を受けます。</li></ul>
見直し (ACTION)	<ul style="list-style-type: none"><li>目標達成状況、取組進捗状況や社会情勢の変化に応じて、柔軟に各施策や対策群を見直します。</li><li>また、それに応じた指標の見直しも必要に応じて行います。</li><li>委員会からの評価と助言を次年度の取組に活かします。</li></ul>
公表 (PUBLICATION)	<ul style="list-style-type: none"><li>毎年委員会に報告する目標達成状況、取組進捗状況等を年次報告書等としてとりまとめ、WEBサイト（いんばぬま情報広場）等により公表します。</li></ul>